

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書 15章5節)

♪ 賛美歌を歌おう⑮
『日暮れて四方は暗く』

讃美歌三九番)

夕べの賛美歌として世界中で愛唱されている名賛美歌です。斯く言う私にとっても、好きな賛美歌を数える時に真っ先に思い浮かぶ賛美歌の一つです。

作詞者は英国国教会の牧師ヘンリー・フランシス・ライト (1793-1847) です。彼はイングランド南部の小さな漁村の教会に二四年間仕えました。持病の肺結核の療養のために冬は温暖な南欧で過ごしていました。

一八四七年の秋、南欧への出発を前にして、この賛美歌が書かれました。二節で『いのちの終わり近く、世の栄えうつりゆく』と詠うのは、彼が自らの死を予期していたからかもしれません。

夕暮れに、エマオへと向かう弟子たちが、イエスに「一緒に泊り下さい」(ルカ24:29)と願った弟子たちの言葉が、彼自身の切なる願いとして歌われているようです。

ライトは、家族が心配して止めるのも聞かず、最後の礼拝で説教を行っていました。そして療養地へと向かう途上、南フランスのニースに滞在中に天に召され、五四歳の生涯を遂げました。この詞を遺した三週間後のことだったそうです。一日の終わりを通して人生の終わりを見つめ、『主よ共に宿りませ』と祈るこの歌には、私たちの心を揺さぶるなんらかの力が込められています。

稲垣真実)